



平成 30 年 10 月 12 日

各 位

株式会社 スーパーバリュー
代表取締役執行役員社長 岸本圭司
(コード番号 3094)
(問い合わせ先)
常務取締役執行役員 中谷圭一
電話 048-778-3222(代)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、平成 30 年 4 月 13 日に公表しました通期業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

平成 31 年 2 月期通期業績予想の修正 (平成 30 年 3 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	81,350	520	618	410	64.74
今回修正予想 (B)	79,425	240	345	230	36.32
増減額 (B - A)	△1,925	△280	△273	△180	-
増減率 (%)	△2.4	△53.8	△44.2	△43.9	-
(参考) 前期実績 (平成 30 年 2 月期)	73,966	55	156	406	64.16

修正の理由

平成31年2月期第2四半期累計期間におきましては、前年同期において積極的に展開を行った現金ポイントカード会員様向けの割引販促を当期は実施しなかったこと、また「働き方改革」への取り組みとして平成30年3月1日より全ての店舗（うち1店舗は4月1日、1店舗は6月1日より）の営業時間を1時間短縮し20時までに変更したこと、さらに猛暑や台風など異常気象の影響もあり、既存店売上高が前年同期比97.0%にとどまりました。また、客数の回復を目的として価格強化を最優先して取り組んだことに加え、前期に実施した現金ポイントカードの仕組み変更以降の積極的なポイント販促により発生した付与ポイントの使用増による売上値引も大きく影響し、売上総利益率が前年同期を0.6ポイント下回る21.2%となり、売上高、売上総利益が計画を下回り、販売費及び一般管理費は計画の範囲内で推移しましたが、営業利益、経常利益、当期純利益は、計画を下回る結果となりました。

平成31年2月期通期業績予想につきましては、第3四半期以降の取り組みにより業績回復を見込んでおりますが、第2四半期累計期間の業績を踏まえ、以下のとおり修正いたします。

売上高は、客数及び売上高の回復に想定より時間を要しておりましたが、より強くメリハリある価格設定の徹底とそれに基づくチラシ掲載商品の見直し、ポイントカードを利用した効果的な販促の実施等により、回復の兆しが見えつつあります。また、多数のお客様からのサマータイム営業（21時閉店）の継続要望にお応えし、当面の間、閉店時間の延長を継続することもあり、10月以降は回復が進むと見ておりますが、当初予想値を19億25百万円下回る794億25百万円に修正いたします。

営業利益は、売上総利益において、集客と利益のバランスを考慮した計画的な利益管理を徹底するほか、PB商品の拡販等による利益改善に取り組み、通期の売上総利益率は21.8%と改善を見込んでいること、販売費及び一般管理費において、平成30年9月に予定していたシステム面の刷新が半年程度遅れることとなり、当初見込んでいた新システムを軸とした業務効率の改善に基

づく経費面の抑制効果は見込めませんが、引き続き作業のマルチ化による生産性向上のほか各種経費節減への取り組み、実験的に取り組みを開始している生鮮商品の母店製造供給についてより効果的な体制を目指し構築を進め、販売費及び一般管理費の抑制に努めますが、当初予想値を2億80百万円下回る2億40百万円に修正いたします。

また、営業利益の修正に伴い、経常利益は当初予想値を2億73百万円下回る3億45百万円、当期純利益は当初予想値を1億80百万円下回る2億30百万円にそれぞれ修正いたします。

なお、今回の修正予想については、前期に変更した現金ポイントカードの仕組みにおいて、約半年間延期をしていたポイントの失効が10月から全店舗にて毎月発生することに伴い、ポイント引当金の減少による売上高、売上総利益、営業利益、経常利益及び当期純利益へのプラスの影響も見込んでおります。

※この資料に記載されております業績予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる場合があります。

以 上